
スプーキーの観察日記

縄跳び

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スプーキーの観察日記

【Nコード】

N8826P

【作者名】

縄跳び

【あらすじ】

私：タカハシと変人：スプーキー
イズミのゆるい日常。
酔っぱらったスプーキー。

ある日の飲み会。今日はいつも以上に盛り上がっている。まあ今日くらいは羽目を外してもいいのかもしれない。

というのも今日の昼休み、大学の教授から直々に是非うちのゼミに来てくれと話があったからだ。いわゆるヘッドハンティングというやつだ。当然だが「平凡」を全身で表現する私…タカハシにそんな話は来ない。

今日の主役…イズミとは大学に入って知り合った。出会った頃はバカかアホ、そうでなければ非常識・・・いずれにしろ変わった人間、略して変人の雰囲気を漂わせていた。そして今のところその印象に間違いはない。

「天才」とはこういった人間のことを指すのだろう。頭がいいだけではない。しかし頭が良いわけでもない。並はずれた専門知識量の代わりに常識や空気を読むことを犠牲にしているのだ。さらに自身の才能を正確に把握している分だけ余計にタチが悪い。

話を戻して、いくら今日がめでたい日で主役が自分の恋人であったとしても、いや恋人だからこそ、奴が暴走しないようにしっかりと舵をとるのが私の保護者としての務めだろう。そろそろ奴の「天才」ぶりが輪をかけて酷くなる頃だ。

「……おい、いくらなんでも飲みすぎじゃないのか？」

隣で普段のペースを無視して飲み続けるイズミに声を掛ける。

「何が？」

(……こいつ)

何のことかわかっているとイズミの顔に書いてあるがもう一度同じことを言ってみよう。

「今日がめでたいのはわかるがそれにしても飲みすぎだろう。そろそろお開きにしないか？」

「なんで？」即答である。

(……この野郎)

「普段から迷惑かけてるんだから今日くらい大人しく帰らないか？」

「やだ。ってか何？あんたまだ保護者気取りでいるつもり？」

(ああ、駄目だ。もう酔っぱらってやがる。)

「冗談きついって。うちももう二十一だよ？自分のことくらい自分でできるって。てか最近思うんだけどさ、タカちゃんって同い年なのに母親みたいでたまにイラッてるんだよね。ちよつとさ、いっぺんどっちが上かハッキリさせたい方がよくない？」

こうなったイズミを止めるのは私にとって試験でイズミに勝つくらい難しい。つまり不可能だ。こういう時は相手にせず黙って帰るに限る。なんだかんだいってもついてくるだろう。

(まずい、あいつ他人にカラム始めた。)

私は無言で席を立つ。もちろん二人分の飲み代を置いて。

「……………でさ、ほんとタカちゃんって…、あ、じゃあうちも帰るね。あとはよろしく。」

(ほらついてきた)

小さな喜びを噛み締めながら怒ったふりをしてイズミの先を歩く。

「ねえちよっと待ってよ。」

私より歩幅の小さいイズミが小走りで後を追ってくるが気づかないふりをする。

「さっきの怒ってる？うそうそ、冗談だってば。」

追いついたイズミが焦った表情でこっちを見ている。

「ねえねえ、タカちゃん、謝るから機嫌直してよ。ほら、見て見て、ごめんなさいのポーズ。」

隣でイズミが馬鹿な格好をしているがまだ無視をする。

「じゃあさじゃあさ、さっき言ってたこと確認しよ？かくにん。」

「さっき言ってたこと？」

イズミの話を全部聞くのは壁に話しかけるくらい無意味なことだ。覚えていたわけがない。

「ほら、お店で言ったじゃんか。どっちが上かハッキリさせた方がよくないって。」

「ああ、そんなことも言ってたな。その話を蒸し返すのか？」

怒ったふりをして聞き直す。まだイズミの思考が読めない。

「違うよ。そうじゃなくてさ、……………しないの？ かくにん。」

イズミのことだ、常識の斜め上どころか異次元の考え方に違いない。だんだんイズミが何を言いたいのか読めてきた。

「ああ、今わかった。お前な、そういうことを言う時はもっと恥ずかしそうにしろ。」

「なんで？」 即答である。

(後書き)

こんな誘い受けがいたらいいなと思ってたら手が勝手に……
二人の詳しい設定はあとで練り練り。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8826p/>

スプーキーの観察日記

2011年1月8日21時23分発行